

自衛官募集相談員の九州地区部隊研修を支援

海自佐世保史料館・福岡地方協力本部・西武航空音楽隊



西部航空音楽隊員と川崎北自衛官募集相談員たち

神奈川地方協力本部溝の口募集案内所（所長 倉橋陸尉）は、10月18日（水）20日（金）の3日間、川崎北自衛官募集相談員会13名の九州地区部隊研修を支援した。

1日目は、海自佐世保史料館を訪れ、最初に展示ロビーにて佐世保の町並みと、海自や米海軍の艦船を望み、続いて旧軍から現在の海上自衛隊までの歴史を展示品と共に学び、貴重な史料に感嘆の声が挙がるなど、充実した時間を過ごした様子だった。

2日目は、福岡地方協力本部において、募集課長から募集状況、相談員の活躍などについて説明を受け、相談員は「防衛校長会・福岡教育連盟との話が印象的で、自衛隊と諸団体の連携がより強固なことに心を打たれた」と話した。

3日目は、空自春日基地に所在する西部航空音楽隊を訪れ、正門では准曹士先任と溝の口募集案内所を通じて入隊した新隊員の出迎えを受け、2人の案内により、基地内を見学した。音楽隊では、入隊要領や活動状況の説明を受け、相談員は「幹部自衛官は、なぜ演奏しないのですか」「同じ楽器のみを演奏し続けるのですか」などと質問し、隊員は丁寧に答えていた。

その後、演奏室において管楽器等によるアンサンブルの演奏を聴き、相談員はしばらくの間、優雅な気分浸りに浸っている様子だった。

溝の口募集案内所は「今後も部隊研修等を支援し、自衛隊への理解増進を図るとともに、防衛基盤の拡充に努めていきたい」としている。

砕氷艦「しらせ」東京湾体験航海を支援



砕氷艦「しらせ」を前に「想像以上の大きさ」と話す生徒（横須賀地方総監部）

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山1海尉）は、10月21日（土）、募集対象者4名に対して、海自横須賀地方総監部において実施された砕氷艦「しらせ」の体験航海を支援した。

当日は、台風のため実施が危ぶまれたものの、天候はなんとか持ちこたえ、小雨の降る中での航海となった。

乗艦前に参加者は、横須賀基地に停泊する多くの護衛艦に目を奪われ、又「いずも」の巨大な姿に圧倒されている様子だった。

参加者を乗せた「しらせ」は浦賀水道を航行し、晴海ふ頭に向けて北上。航行中の艦内では、装備品や艦載ヘリコプターを見学し、乗組員によるラッパ吹奏や手旗信号も披露された。理髪設備を見学した参加者は「長い航海をする南極観測には欠かせない施設だけど、隊員がお互いに髪を切るのですか」などと質問し、興味津々の様子だった。

横浜みなとみらい地区の高層ビルや東京湾アクアライン、お台場などを眺め、最後にレインボーブリッジの下を通過すると、いつもとは違う角度から見る景色に艦上では歓声が上がりがり、ほどなくして晴海ふ頭に入港した。

医官として「しらせ」での勤務を希望する参加者は「あつこいつ間の3時間でしたが、ゆっくりと見学することができました。この船で勤務できるように頑張ります」と話した。

厚木募集案内所は「今後も様々な機会を通じて、自衛隊の活動や魅力を積極的にPRし、1人でも多くの若者に志願をしてもらえるよう募集活動に励んでいきたい」としている。

海自「中級管理講習」で予備自衛官等制度説明を実施



予備自衛官等制度について聴講する海自隊員

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 山野太資）は、11月7日（火）、海上自衛隊第2術科学校で実施された「平成29年度第4回中級管理講習」において、海自隊員67名に対する予備自衛官等の制度説明を行った。

本講習は、3佐以下の幹部及び准曹の定年退職予定隊員を対象とし、社会への適応性啓発や退職後の生活の安定を図るために必要な知識を付与することを目的として実施されており、神奈川地本は今年度から本教育において予備自衛官等の制度説明を行っている。

当日は、予備自衛官等の制度、訓練内容等について紹介、また、即応予備自衛官についても、陸上予備自衛官を経ることにより、海上自衛官も志願が出来ることなど、スライドを見せながら分かり易く説明し、予備自衛官への志願及び所属部隊における情報提供を呼びかけた。

受講者からは、1日間訓練の内容、訓練出頭に関する調整方法などについて熱心な質問が出るなど、予備自衛官への志願に興味を示す受講者の姿も見られた。

神奈川地本は「今後も同様の機会を活用して、予備自衛官等制度の周知徹底を図るとともに予備自衛官等の勢力拡充に努めていきたい」としている。